

厨子を新造寄進せられた事は、獨り一山の欣びのみに止まらず、又之を一般藝術愛好者に傳へて喜びを共にすべき一勝事たるを失はない。

新造厨子は大體の規模、淨琉璃寺吉祥天厨子に倣ひ、高さ四尺八寸、正面幅庇三尺二寸五分、臺三尺七分、製作は吉田包春氏の手に成り、全體黒漆塗、藻井並に臺座は密陀繪を以て飾り、蝶番には牛革を用ふる等仲々意匠を凝らし、しかもこの像にふさはしき簡淨さを持つて居る。厨子の背面には正木直彦氏が漆書もて厨子寄進の因縁を誌されてゐる。

去る三月十三日深大寺に於て厨子落慶供養並入佛式が舉行せられ、正木直彦、溝口禎次郎その他諸氏の參列があつて如法に式典を嚴修した。(正木)

美術及歴史的記念建造物の保護保存 に關する國際専門家會議

昨年十月二十一日より十日間アテンに開かれた此の會議は、前年ローマに行はれたものと同様、國際聯盟の學藝協力國際學院 (L'Institut international de Coopération intellectuelle) によつて主催されたものである。参加するものフランスを始め、ベルギー、ドイツ、イギリス、オランダ、ノールウエー、スペイン、スイス、ルーマニア、イタリア、エジプト、オーストリア、ポーランド等十數箇國、夫々斯界に於ける知名の士が委員として派遣された。ローマに行はれた前會議に於ては、美術品保存の方法手段の考究が主となつてゐたが、此の度は歴史的記念建造物のそれが研究の目的であつた。會議の日程と議事の概要とを記してみるに、

第一、各國法規の説明。——に於ては、佛、白、西、英、蘭の諸國の委員達が夫々自國の記念建造物保存に關する法規の精神を述べ、

第二、記念建造物の復舊に就て。——の項に於ては、數箇國の委員の意見の發表があつたが、それ等は、記念建造物の全體的復舊は之を排すること、又過去の製作物は様式の變つた附加的作品をも保存する必要なること、建築物を

其の歴史的或は美術的特色に對して尊敬愛着の念を懷かせつゝ之を生かしめることの利益等の諸原則に歸せられる。

第三、記念建造物の保存に關して新材料の使用其他技術上の注意に就て。——の項は、議事題目の意味廣汎に過ぎた爲か種々の議論が提出されたが、結局本會議の決議として、建築家は物理學者や化學者の協力を得て石材の風化を研究し、使用に先立つて永續性ある材料を決定して置くこと、彫刻は出来るだけ作られたもの場所に置くこと、或は大事を取るならば原作を別に保存して複製を代りに置くこと等を勧めてゐる。また

「廢墟は之を慎重に保存することが肝要であつて事情が許す限り發見されたもとの部分の再取付を行ふべく、又其の爲に必要な新しい材料は常に見分けの付くものでなくてはならない、發掘中途にして廢墟の保存が不可能と認められた際は再び埋めて了つた方がよい。勿論此の場合は正確な一覽圖を取つた上でのことである。發掘の技術と保存とは、考古學者と建築家との密接な協力を必要とするものであることは言を俟たない」云々の希望を述べてゐる。

第四、記念建造物の周圍に就て。——は之が公開を禁じ、其の存在する附近に於ける電柱電線の濫用を止め、工場や、高い煙突等を除去することを勧告してゐる。

第五、記念建造物の利用。——の項に於ては發言者一人も無く、第六、國際博物館事務局が研究或は事業を始める特別なる目標を如何にすべきか。——に就ては、國際的な關心のある記念建造物は國際的支持を仰がねばならぬ、又建築史の研究には記念建築物の一覽圖や寫眞等の組織的刊行が必要であるから、各國は記念建造物に就ての記録を作成し、小誌を附した目錄を發行したいものである。これ等希望の實現の爲に同局は盡力する所ありたいとの意見等が述べられた。

會議後委員達はアテンの諸美術館、ベナキ蒐集品等を觀、エヒダロウス、ミケネ、チリント、クレタ島等の諸遺跡を歴訪した。

以上アテンに於ける國際専門家會議の狀況の概略を記したが、我國が之に參

加しなかつたのは特別な理由による譯ではなく、人選其の他に困難があつた爲めに、我國に於ける關係法規を送附したに過ぎなかつたと聞いて居る。斯の種の會議に我國も參加發言するならば、我國斯界の進歩に裨益する所少からぬのみならず、又我國古美術の海外宣傳の好機會ともなるので、將來は是非斯くありたいと思はれる。(新)

米國の古美術輸入額

アメリカ合衆國商務省(Department of Commerce)の發表する所によれば、一九三一年度に於ける同國の古美術品輸入總額は二千七百五十萬五千八百十八ドル(邦貨時價に換算すれば八千二百五十萬餘圓)。このうちボストン、フィラデルフィア、ニュー・オルリインズ、サンフランシスコ、シヤトル諸市を経由して輸入されたるもの約四百萬ドル、残り二千三百五十萬ドルはすべてニューヨークを経て輸入された。こゝに古美術といふのは合衆國關稅法の規定する所に從つて一千八百三十年以前の製作に係るものを指してゐるのである。

米國はその老なる富力を以て頻りに優秀なる美術品の蒐集に努め、歐洲各地に開かれる大小の賣立に出た主要なる作品の多くは、大西洋を渡つて米國內に持込まれてゐることは、著しい事實である。斯くの如く米國が、美術品買入に果して幾何の費用を支拂つてゐるかは、久しく吾人の好奇心の的であつたが、經濟的不況裡に沈淪せる昨年度に於てすら、なほかつ、八千二百萬圓の巨額を投じてゐることが、明かに示されては、歐洲美術の傑作が如何に米國に蒐められつゝあるかを思はしめて、世界を驚かすところ甚大なるものがある。尙こゝに注意すべきは、前掲の數字は一千八百三十年以後即ち最近百年間の製作にかゝる近代美術品の輸入額を含んでゐないことで、茲に除外されて居る近代美術の蒐集に於いても米國が決して僅少でないことは、例へばハヴエマイヤー蒐集、バアンズ蒐集等全世界を通じて最も大規模なる近代美術の蒐集が數多く米國にあることによつても立證せられる。而してまた米國に集中されつゝある美術品は單に決して西洋美術の分野に於てのみではない。東洋美術の方面にも手廣き

蒐集網を張つて居るので、例へば別項記載の如く有名なる傳閣立本筆帝王圖卷が特に我國に齎られ、日本の誰かに購入されたいと各方面より希望されたにも拘らず、遂にボストン美術館の收藏に歸したる如き、最近の一著例たるに過ぎないのである。

かくして米國は世界美術の傑作を着々と自己の掌中に收めて、今や世界の大美術國になりつゝある。一體美術の研究に於て、米國は歴史と古美術とを持たずと云はれて、從來我國の美術研究者は餘り新大陸に注意せず専ら歐洲を目指して留學する傾向があつた。勿論西洋文明の故郷として古大陸の重要性には變りはないが、一方米國に於ける美術品蒐集の急速なる進歩は、最早無視出來なくなつたことを記憶しなければならぬ。特に米國に急速に歸屬しつゝあるものは、謂はゞ新發見の資料或は新たに初めて移動し得たる名作傑作が多いのであつて、研究價值より云へば、往々にして、既に研究し盡されたる有名なる歐洲の名作よりも、更に目新らしく且つ興味深いものが少くないのである。吾人は米國の美術館及び個人蒐集を見學する毎に、この種の感想を抱いたのであつたが、茲に、適確なる數字を以つて、米國の古美術輸入の年額を得たが故に、再び米國の蒐集の重大になりつゝある事實を想起し、研究者の參考に供する所以である。(木下)

帝王圖卷ボストン美術館に歸す

嘗て東京に於て開催せられた唐宋元明名畫展覽會には幾多の名品が出陳せられて當時の美術界を賑はし、その中には尙吾人の眸底に深く印象せられて忘れんと欲するも能はざる名品の二三を數へる事が出来る。梁鴻志氏の手によつて舶載された福建林氏收藏の傳閣立本筆帝王圖卷は實にその一であつた。當時の出陳畫中傳李龍眠筆五馬圖卷は既に日本に歸し、帝王圖卷も亦幾度か我國に購入せられんとして果たさず、遂に今般米國ボストン美術館の收藏に歸するに至つた旨が本年二月の同美術館報告によつてなされ、富田幸次郎氏が本圖卷に關する懇切なる解説を掲げてゐる。ボストン美術館には從來 Denman, W. Ross